

令和5年度北海道教育大学札幌校教員養成課程 編入学入試試験問題

言語・社会教育専攻 国語教育分野

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題紙を開かないこと。
- 2 問題紙は表紙を含めて7枚あります。
- 3 問題は問題一から問題六まであります。すべての問題に解答すること。
- 4 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 5 受験番号は指定された欄すべてに記入すること。
- 6 解答は縦書きとし、指定された字数にまとめるごと。句読点や括弧記号等も、一字分とします。
- 7 試験終了後、問題紙すべてを提出すること。
- 8 試験中に問題紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

得点 () / 300

問題一 次の各問い合わせなさい。（合計 70 点）

問題一 次の熟語の読み方をひらがなで書きなさい。（各 2 点 × 10 問、合計 20 点）

時期尚早

雪渓

安寧

煮沸

惡寒

象牙

怨恨

唾棄

瓦解

脚立

【解答欄】

①

②

③

④

⑤

問題二 次の傍線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。（各 2 点 × 10 問、合計 20 点）

衣服のホコロびを直す。

シンボクを深める。

オクすることなく挑んでいく。

飼つている犬を元キアイする。

キンサで勝ちを収めた。

新しい機能をトウサイしている。

神をスウハイする。

ウルシを材料に使つた品物。

力け事にのめりこむ。

カーテンのスリ。

【解答欄】

①

②

③

④

⑤

問三 次の慣用表現の誤りを直して、全体を書きなさい。ただし、誤りがない場合は○を書きなさい。また、それぞれの慣用表現の意味を書きなさい。（各3点×10問、合計30点）

① 足蹴にする ② 取り付く暇もない ③ 一線を隠す

④ のべつぐまなし ⑤ 堅忍不抜

【解答欄】

（正しく書き直す。誤りがない場合は○を書く。）

- ① ○
② ○
③ ○
④ ○
⑤ ○

（意味を書く。）

- ① ○
② ○
③ ○
④ ○
⑤ ○

問題一 次の傍線部について文法的に説明しなさい。品詞、活用の種類、活用形、意味用法などを、

できるだけ詳しく書くこと。（各6点×5問、合計30点）

- ① ある晴れた日に、ピクニックに出かけた。
② 荷物をここに置いておくね。
家から学校まではかなり遠い。
豆腐は大豆がらでできている。
このカバンは大きいがら物がたくさん入る。

【解答欄】

- ⑤ ④ ③ ② ①

問題三 次の①～⑤に答えなさい。（各6点×5問、合計30点）

- ① 田山花袋、島崎藤村などの作家に代表される文学は、何と呼ばれるか、その一般的な名称を書きなさい。

- ② 鈴木三重吉が創刊した少年・少女のための雑誌の名前を書きなさい。

- ③ 夏目漱石の中期三部作と呼ばれている作品の中から、一作品でいいのでタイトルを書きなさい。

- ④ 『若い詩人の肖像』『氾濫』などの作品で知られる新心理主義の作家の氏名を漢字で書きなさい。

- ⑤ 尾崎紅葉が書いた明治時代を代表するベストセラー小説のタイトルを漢字で書きなさい。

【解答欄】

⑤ ④ ③ ② ①

問題四 次の文章を、一四〇字以上一八〇字以内で要約して書きなさい。ただし、筆者の今現在の主張についても触れる」と。(70点)

○×モードの言語中枢

「日本の経済学者のほとんどが、エツ、ほんとに学問やつてるの？　て感じの人が多いんだよね。多すぎる」

頭脳明晰、英語も日本語も堪能なモスクワ大学経済学部長のVは歯に衣着せない。実は学会で通訳をするたびに、日本人研究者の発言における語と語のあいだの関係性の希薄さについては、わたくしも感じていたところなので、ちょっと突っ込んでみた。

「学問的でないというのは、どういうところが？」

「知識は豊富なんだけれど羅列なんですよ。それを体系化して現実の全体像を把握するのが学者の仕事だと思うのだが。日本は学問観が違うのかなあ」

学問観の違いというよりももつと根が深い気がする。知識観の違い、それをベースにした教育方法そのものの違いなのではないか。

三〇年以上も昔のこと。中学二年の三学期に、チエコのプラハから帰国し、地元の学校に編入させられたわたしは、ほとんどのテストが○×式か選択式であるのに、ひどく面食らった。

次に列举する文章の内、正しいものには○を、間違つたものには×を記せ。

- () 刀狩りを実施したのは、源頼朝である。
() 鎌倉幕府を開いたのは、源頼朝である。
() 「源氏物語」の主人公は、源頼朝である。

(問題四の文章の続き)

鎌倉幕府が成立したのは（　　）年である。

右の文のかつこ内に当てはまるものを、以下の①～④の中から選んで埋めよ。

- ①一八六八 ②一六二二 ③一四九七 ④一一九二

初めてこのタイプの出題に接したときは、正直言つて、嘘じやないか、冗談じやないかと思つた。無理もない。それまで五年間通つていたプラハの学校では、論文提出か口頭試問という形での知識の試され方しかしていなかつたのだ。

〔鎌倉幕府が成立した経済的背景について述べよ〕

「京都ではなく鎌倉に幕府を置いた理由を考察せよ」

というようなかなり大雑把な設問に対し、限られた時間内に獲得した知識を総動員して書面であれ口頭であれ、ひとまとまりの考え方、他人に理解できる文章に構築して伝えなくてはならなかつた。一つ一つの知識の断片はあくまでもお互いに連なり合う文脈を成しており、その中でこそ意味を持つものだつた。

ところが、日本の学校に帰つたとたんに、知識は切れ切れバラバラに腑分けされて丸暗記するよう奨励されるのである。これこそが客観的知識であるというのだ。その知識や単語が全体の中でどんな位置を占めるかについては問われない。

これは辛かつた。苦痛だつた。記憶は、記憶されるべき物事と他の物事、とくに記憶する主体との関係が緊密であればあるほど強固になるはずなのに、単語と単語のあいだの、そして自分との関係性を極力排除した上で覚え込むことを求められるのだ。ひたすら部品になれ、部品になり切れと迫られるようだつた。自分の人格そのものが切り刻まれ解体されていく恐怖を感じた。たまらなくなつて担任教師に訴えると、彼は誠実に答えてくれた。

「論文や口頭試問では、評価が大変です。教師の力量が足りませんし、教師対生徒の人数比を今的一半にしなくてはなりませんね。それに、評価するものの主觀によつて評価が左右される。不公平になるでしよう」

そのときは、どこか腑に落ちないものの、一応納得して引き下がつたわたしが、今では心の中で反論し続けていた。公平な評価なんてフイクションだ。今の方々だと、機械でも採点出来るから、評価の基準が画一化すること。単に教師が評価に責任を負わなくとも良くなるだけだ、と。

（米原万里『心臓に毛が生えている理由』角川学芸出版、二〇〇八年より。一部改変。）

【解答欄】

180	140
-----	-----

問題五 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（合計 50 点）

九月廿日の比はつか こう、ある人に誘はれいざなりて、明くるまで月見歩く事侍りしに、^②思し出づる所ありて、案内せさせて入り給ひぬ。荒れたる庭の露しげきに、わざとならぬ匂ひ、しめやかにうちかをりて、忍びたるけはひ、いともあはれなり。
よきほどにて^③出で給ひぬれど、なほ^④事さまの優におぼえて、物のかくれよりしばし見ゐたるに、(佳)妻戸まごとをいま少しおしあけて、月見る氣色なり。^⑤やがてかけゆがてかけ」もらましかば、口惜しからまし。あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。^⑥かやうの事は、ただ朝夕の心づかひによるべし。その人、ほどなくうせにけりと聞き侍りし。

注 妻戸……出入口の二枚の板戸。

問一 傍線部①・②について、a 敬語の種類、b 敬意の対象（誰に対する）をそれぞれ答えなさい。（各 4 点×2 問、合計 8 点）

【解答欄】

- ① a
② a b

問二 傍線部③を品詞分解しなさい。単語ごとに横線を入れ、右横に、品詞と、用言の場合は活用の種類、付属語の場合は意味、活用語の場合は活用形も、それぞれ書きなさい。（8 点）

【解答欄】

出 で 給 ひ む れ ど

問三 傍線部④はどのようなことを指していますか。答えなさい。（6 点）

【解答欄】

問四 傍線部⑤を現代語に訳しなさい。（10 点）

【解答欄】

問五 この文章は鎌倉時代の隨筆の一節です。次の問い合わせに答えなさい。（各 2 点×4 問、合計 8 点）

- (1) ①@作品名、②作者名を答えなさい。
(2) ③に当たる人物をあらわす言葉を文章中から抜き出しなさい。
(3) 平安時代に成立した、代表的な「隨筆」の作品名を答えなさい。

【解答欄】

- (1) ④
(2) (3)

問六 傍線部⑥は、作者を感じさせた、ある人に誘はれて行った家の主人の態度を指しますが、それはどのような態度ですか。詳しく書きなさい。（10 点）

【解答欄】

問題六 次の『韓非子』の一節を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（合計 50 点）

鄭人有且買レ履者。先自度ニ其足一而置ニ之
其坐至レ之市而忘レ操レ之。已得レ履ヲ
忘レ持レ度。」反帰取レ之及レ反市罷。^③遂不レ得レ履。
人曰、「何不試レ之以レ足。」曰、「寧^A信^B度、無ニ自
信一也。」

（注 鄭：春秋時代の国名。 度：寸法を測る。寸法書き。 操：手に持つこと。）

問一 傍線部①を、すべてひらがなで書き下しなさい。（10 点）

【解答欄】

問二 傍線部A～Bの読みを、送り仮名も含めてそれぞれ答えなさい。（各3点×2問、合計6点）

【解答欄】

A

B

問三 傍線部②について、市が終わるまでの間、「鄭人」は何をしていましたか。説明しなさい。（10点）

【解答欄】

問四 傍線部③を現代語訳しなさい。（10点）

【解答欄】

問五 傍線部④は、「何（ a ）之を試みるに足を以てせ（ b ）と。」と書き下します。

（ a ）・（ b ）にそれぞれ送り仮名を入れなさい。（各2点×2問、合計4点）

【解答欄】

a

b

問六 作者は「鄭人」のどのような点を批判していますか。説明しなさい。（10点）

【解答欄】